

BMC プログラム・海外派遣報告書

化学専攻 生物物理化学研究室

M1 藤井 直樹

派遣先：(1) Northeastern 大学 ポストン, MA

(2) Boston 大学 ポストン, MA

派遣期間：2009 年 8 月 9 日 ~ 2009 年 8 月 23 日

今回私は、BMC インテグレートド大学院理学教育のご支援で、研究室見学及び、研究発表の目的で、アメリカの大学に行かせていただきました。滞在期間のほとんどは、Northeastern 大学の Champion 研究室(生物物理研究室)に滞在し、最後の 1 日だけ Boston 大学を訪問し、セミナーを開かせていただきました。

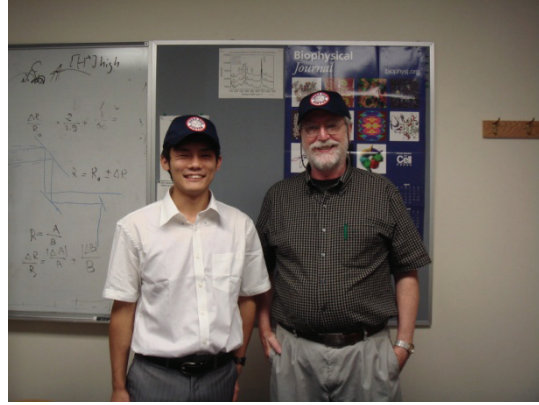
Champion 研究室では、実験装置の見学、実験の見学及び、その手伝いをさせてもらいました。この研究室の研究対象は、私の所属している研究室と似ているものの、使用している装置が全く異なり、大変勉強になりました。今回、実験装置の設計にも立ち合わせていただきました。これまで、装置の組み立てはしたことがなく、試料をつくり、測定することがメインだったので、大変興味深く、また、違った観点から生物物理学に関心を抱くようになりました。私の研究発表の日には、向こうの大学院生がピザを注文して下さり、和やかな雰囲気での発表会となりました。こういった雰囲気での発表会は味わったことがないので、かなり新鮮でした。ピザのサイズの大きさには、カルチャーショックを受けました。訪問中はポスドクの方が親身に面倒を見て下さり、また、Champion 教授も終始気を配って下さったので、不自由することもなく、居心地が良かったです。英語力に乏しく、めちゃくちゃな英語を使う私に、皆さん色々と話しかけて下さり、大変お世話になりました。

今回の短期滞在は、訪問先の教授とメンバーの方々をはじめ、宿泊先のホテルのおじさんや、現地の方たちに助けられ、人の温かさにもたくさん触れられた滞在でした。多くのことを学び、経験したこの 2 週間は、自分にとってかけがえのないものでありました。ポストンでの経験を無駄にすることなく、今後の自分の成長に生かし、社会に還元できて初めて、今回の滞在は成功だと言えると思うので、今後はより一層切磋琢磨していきます。

最後になりましたが、私の唐突な申し出を快く受け入れて下さった Champion 教授、先方との連絡並びに、海外派遣の手続きに積極的に力を貸して下さいました水谷教授、そして経済的な支援をして下さいました BMC インテグレートド大学院理学教育プログラムの関係者の皆様に、深く御礼申し上げます。



Northeastern 大学での発表



発表後 Champion 教授から帽子をいただきました。



Northeastern 大学



Boston は綺麗な街でした。